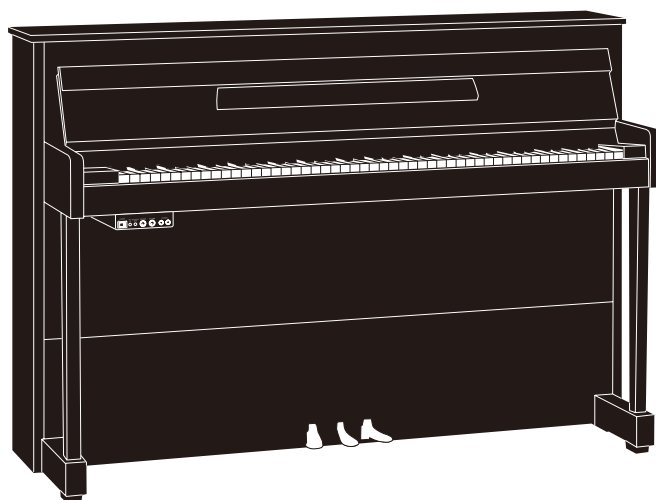




ハイブリッドピアノ
DUP-8/DUP-22B



取扱説明書

ごあいさつ

このたびは、ヤマハハイブリッドピアノをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本製品を正しくお使いいただくために、お使いになるまえに、この取扱説明書を必ずお読みください。

- ◆この取扱説明書と保証書は大切に保管し、使い方がわからないときや調子が悪いときにお役立てください。
- ◆お買い上げいただいた際、保証書は「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ずお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。

本機の特長

アップライトピアノアクションによる本物のタッチ感

鍵盤を弾くとアクションがはたらき、ハンマーが動くアコースティックピアノと同様の機構により、アップライトピアノに極めて近いタッチ感を実現しました。

非接触式連続検出キーセンサーが鍵盤の微妙な動きを検出

鍵盤の微妙な動きを、光ファイバー方式のキーセンサーが忠実に検出。タッチの微妙なニュアンスをきめ細かくキャッチします。

グランドピアノ並みの3本ペダル仕様

ソフトペダル、ソステヌートペダル、ダンパーペダルの3本ペダルを採用。ペダル表現も思いのままに行えます。

リアルなピアノ音

色彩感あふれる生の音を忠実にステレオサンプリングしたピアノ音源で、さらにリアルなピアノ音を表現できるようになりました。ピアノ独特の鋭い立ち上がりと美しい余韻から、打鍵の強弱による音色の変化、ダンパーの共鳴効果にいたるまで、表情豊かなピアノ音色をお楽しみください。

多彩な表現を可能にする合計10音色を内蔵

ピアノ以外にも、ハープシコードやパイプオルガンなど多彩な音色を内蔵。ピアノ以外の音色では、音に変化をつけたバリエーションもお楽しみいただけます。さらにふたつの音色を組み合わせることができるデュアルボイス機能を搭載。さまざまなジャンルの楽曲・多彩な表現を、この1台でお楽しみいただけます。

音量調節が自由自在

演奏する時間や状況に合わせて、音量を自由に調節できます。また、別売のヘッドフォン（標準ジャック使用）を使用すれば、周囲に気兼ねなく演奏できます。ヘッドフォンは2本同時に接続できますので、ヘッドフォン使用時でもレッスンや連弾が可能です。

レッスンに役立つ録音・再生機能を搭載

内蔵メモリーに1曲分の録音が可能です。練習や曲作りにお役立ていただけます。また、USBメモリーも接続可能。内蔵メモリーに録音した曲を保存したり、USBメモリー内に保存されている曲を本機で再生することができます。

50曲の試聴曲を内蔵

レッスンや発表会でよく使われるピアノの名曲を50曲内蔵しました。対応する楽譜も付属しています。

目次

ごあいさつ.....	2	演奏を録音する.....	15
本機の特長.....	2	内蔵メモリーに録音した曲を再生する.....	16
付属品.....	3	USBメモリーを接続する.....	17
設置について.....	3	録音した曲をUSBメモリーに保存する.....	18
安全上のご注意.....	4	USBメモリーの曲を再生する.....	19
はじめに.....	6	試聴曲を再生する（試聴モード）.....	20
各部の名称.....	6	他の機器との接続.....	22
鍵盤蓋の取り扱い.....	8	他のオーディオ機器と接続する.....	22
譜面板の取り扱い.....	8	他のMIDI機器と接続する.....	24
ヘッドフォンハンガーの取り付け.....	9	その他の情報.....	25
電源コードの接続.....	9	故障かな？と思ったら.....	25
音量の設定.....	9	エラー通知について.....	26
演奏時の操作.....	10	音色一覧.....	26
ヘッドフォン（別売）を使う.....	10	試聴曲一覧.....	27
音色を選ぶ.....	11	各音色のMIDIデータ （プログラムチェンジナンバー）.....	28
ブリリアンスを調整する.....	12	MIDIファイルの再生順序.....	28
リバーブをかける.....	13	仕様.....	29
ピッチを合わせる.....	13	お手入れについて.....	30
DDE（ダイナミック・ダンパー・エフェクト） をかける.....	14	取り扱いについて.....	31
すべての設定を工場出荷時の値に戻す （オールリセット）.....	14	鍵盤操作一覧.....	32
録音と再生.....	15	MIDIインプリメンテーションチャート ..	37
		保証とサービスについて.....	38

付属品

以下の付属品がお手元にあることをご確認ください。

- ・ 高低自在イス
- ・ 電源コード
- ・ ヘッドフォンハンガー（1個）
- ・ ヘッドフォンハンガー取り付けネジ（2個）
- ・ 取扱説明書（本書）
- ・ 楽譜集「ピアノで弾く名曲50選」
- ・ 保証書

設置について

- ・ 直射日光の当たる場所、暖房機器のそばなど高温な場所、高湿な場所は避けて設置してください。
- ・ ホコリの多い場所は避けて設置してください。
- ・ 煙、スプレーなどがかからないようご使用ください。
- ・ 電源コードは必ず指定のものをご使用ください。故障の原因になります。

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。



注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると、生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れあり キャビネットをあげるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理／交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	---

△記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、は注意が必要なことを示しています。

○記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

●記号は、行為を強制または指示することを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

※ お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。



警告

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



本機の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は、必ずお買い上げ店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など、湿気の多いところで使用しない。また、本機の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

感電や火災、または故障の原因になります。



使用中に電子音が出なくなったり、異常なおい煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



電源は必ず交流 100V を使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。



電源プラグにホコリが付着している場合は、ホコリをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。
























本機の内部に異物や液体が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



注意

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性があります。

-  電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものを乗せない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
-  本機を壁につけて設置するときは、本機背面の電源プラグに無理な力がかからないように、壁との間に少しすき間をあける。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
-  電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。
-  タコ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱したりすることがあります。
-  電源コードやプラグが傷んだときは使用しない。また、長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電、ショート、発火などの原因になります。
-  他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切ったうえで、電源を入れたり切ったりするまえに、必ず機器のボリュームを最小（0）にする。
感電または機器の損傷のおそれがあります。
-  直射日光のあたる場所や暖房器具の近くなど、極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またホコリや振動の多いところで使用しない。
外装が変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。
-  テレビやラジオなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
-  不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がケガをしたりする原因になります。
-  本機を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外したうえで、コードを傷めたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。
-  本機を移動するときは、引きずらない。
床を傷つけるおそれがあります。
-  本機を移動するときは、手や足を挟まないようにする。
ケガをするおそれがあります。
-  本機を使用しないときは、鍵盤蓋を閉める。鍵盤蓋の開閉は、両手で静かに行う。また、お客様や周りの方が、不用意に鍵盤蓋に触れないようにする。
鍵盤蓋に手や指を挟み、ケガをするおそれがあります。
※ DUP-22B の「ソフトランディング機構」鍵盤蓋は安全装置ではありません。
-  地震のときは、本機から離れる。
地震による強い揺れで本機が動いたり転倒したりして、ケガをするおそれがあります。
-  外装をお手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本機の上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。
外装や鍵盤が変色・変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
-  本機の上に乗ったり、重いものを乗せたりしない。また、スイッチやつまみ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本機が破損する原因になります。
-  大きな音量で長時間使用しない。
聴覚傷害の原因になります。特に、ヘッドフォンを使用する場合や、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用する場合は、大音量になりやすいためご注意ください。万一、聴力低下や耳障りを感じたら、専門の医師にご相談ください。
-  イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。
このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒・破損し、お客様がケガをする原因になります。
-  イスには二人以上ですわらない。
イスが転倒・破損し、お客様がケガをする原因になります。
-  イスにすわったままでイスの高さを調節しない。
イスにすわったままイスの高さを調節すると、高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構が破損したり、お客様がケガをしたりする原因になります。
-  イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。
ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締めなおしてください。

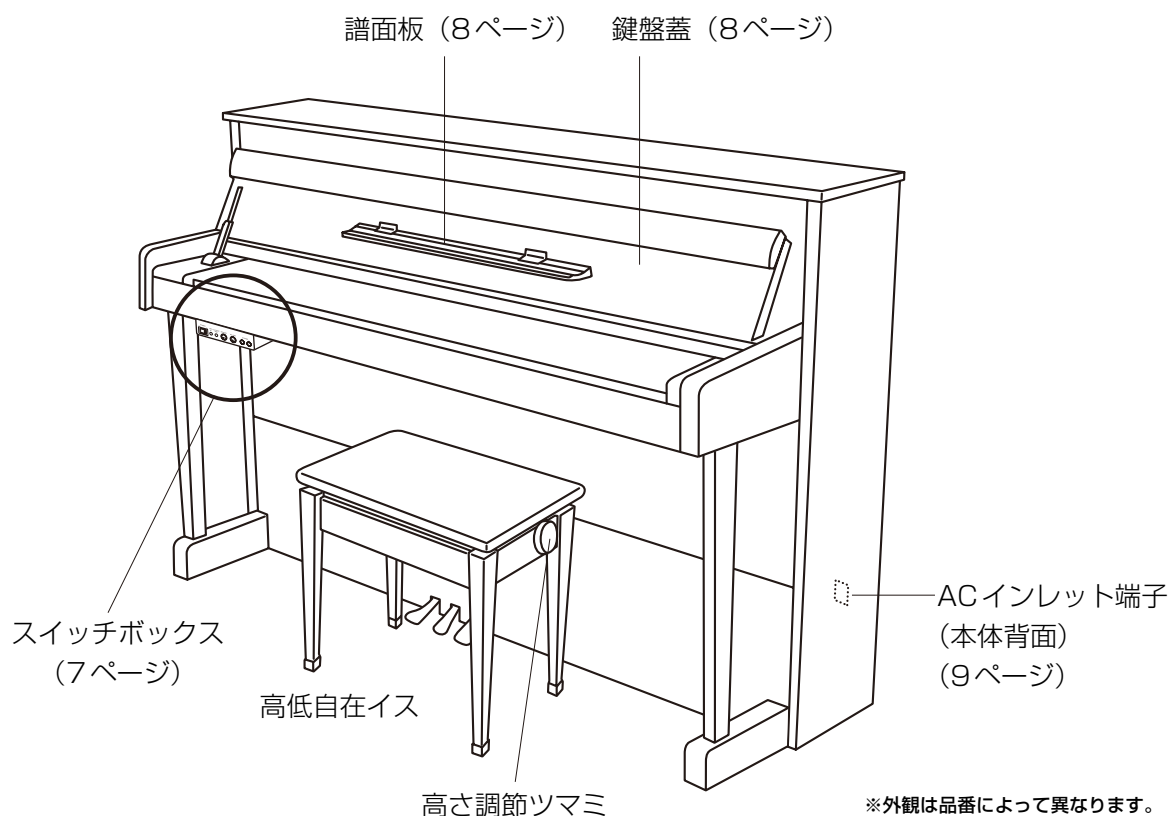
不適切な使用や改造により故障した場合の保証は致しかねます。

長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

はじめに

各部の名称

■ ピアノ本体



■ ペダル

ダンパーペダル

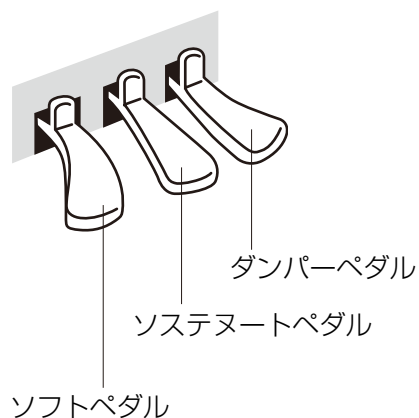
このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても、音を長く響かせることができます。ピアノの音色でダンパーペダルを踏むと、アコースティックピアノで得られる弦の共鳴効果（ダイナミックダンパーエフェクト）が加わります。

ソステヌートペダル

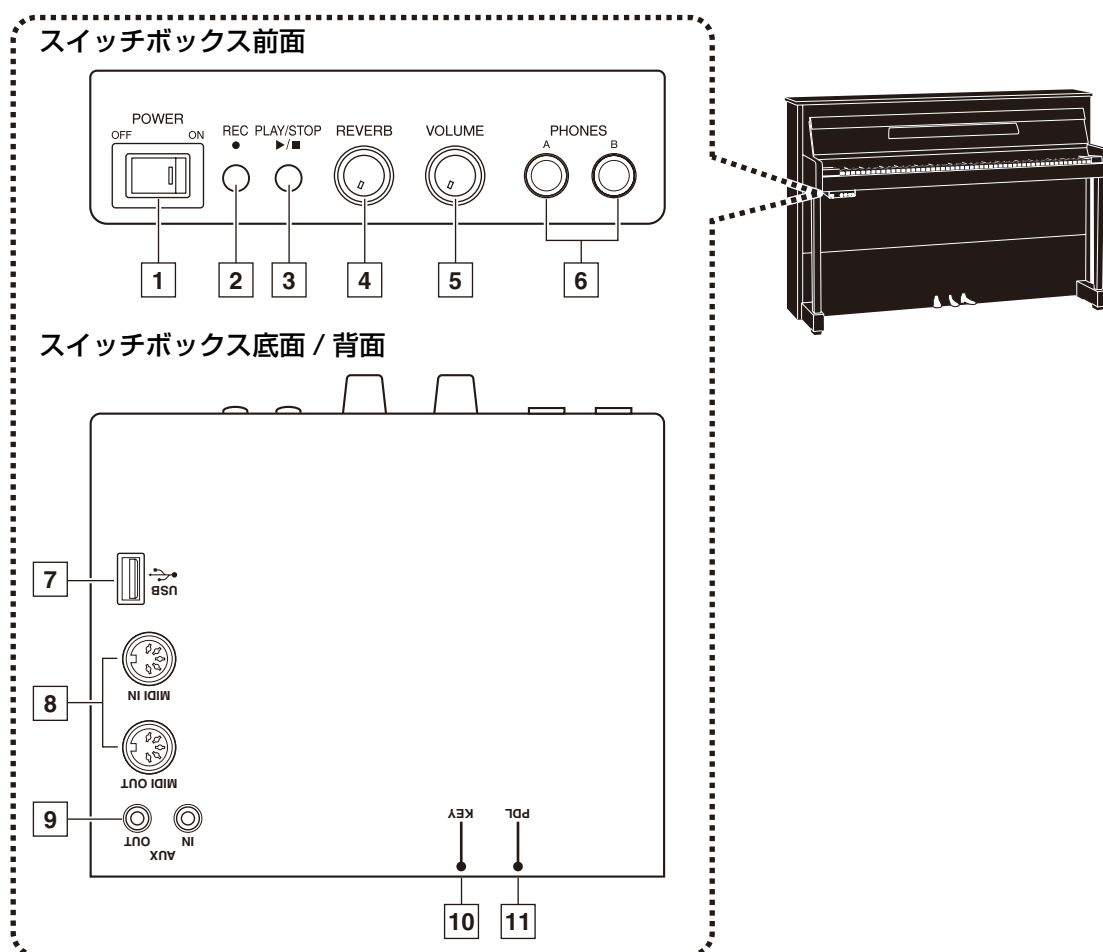
このペダルを踏むと、そのとき押していた鍵盤の音のみ、長く響かせることができます。

ソフトペダル

このペダルを踏むと、ソフトな音になります。踏み込む深さにより効果を変化させることができます。ピアノ以外の音色を選んでいるときは、このペダルを踏んでノーマル音色とバリエーション音色とを切り替えます（11 ページ）。



■ スイッチボックス



1 電源スイッチ (POWER)

電源をオン／オフします。

2 録音ボタン (REC)

本機を録音待機の状態にします。ボタンとランプ兼用で、ランプの点灯の種類により録音状態を表示します。

3 再生／停止ボタン (PLAY/STOP)

再生を開始／停止します。ボタンとランプ兼用で、ランプの点灯の種類により本機の状態を表示します。

4 リバース調整ツマミ (REVERB)

リバースの深さ（かかり具合）を調節します。

5 音量ツマミ (VOLUME)

音量を調節します。

6 ヘッドフォン端子 (PHONES : 標準ジャック)

ヘッドフォンを接続します。2本まで同時に使えます。

7 USB 端子 (USB TO DEVICE)

USB メモリーを接続します。

8 MIDI IN / MIDI OUT 端子

外部 MIDI 機器の出力端子／入力端子と接続します。

9 AUX IN / AUX OUT 端子 (ステレオミニジャック)

外部オーディオ機器の出力端子／入力端子と接続します。

10 KEY 端子

キーセンサー用の端子です（納入時に接続されています）。

11 PDL 端子

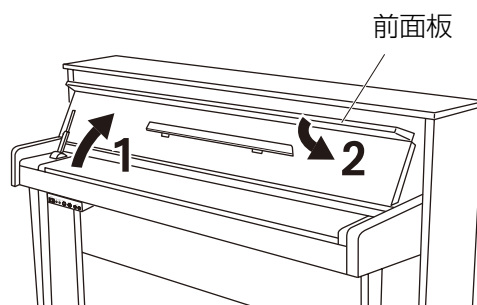
ペダルセンサー用の端子です（納入時に接続されています）。

鍵盤蓋の取り扱い

■ 開けるとき

1 両手を添えてゆっくりと起こします。

2 鍵盤蓋の前面板を下向きに倒します。



■ 閉めるとき

1 倒していた鍵盤蓋の前面板を止まるまで上向きに戻します。

2 両手を添えてゆっくりと閉めます。

メモ

鍵盤蓋を開いたら、前面板は下向きに倒してご使用ください。上向きのまま使用すると、音がこもることがあります。

ご注意

- ・ 閉めるときは、無理に力を加えないでください。
- ・ 本機を使用しないときは、鍵盤蓋を閉めてください。鍵盤蓋は両手で静かに開閉してください。また、自分や周りの方が、不用意に鍵盤蓋に触れないようにご注意ください。鍵盤蓋に手や指を挟み、ケガをする恐れがあります。
- ・ (DUP-22B のみ) ソフトランディング機構には手を触れないようにしてください。また、この機構は鍵盤蓋を閉じる際に補助として使用される装置です。鍵盤蓋を閉じるときは必ず両手で静かに行ってください。

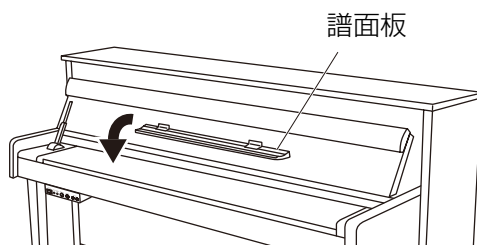
譜面板の取り扱い

■ 立てるとき

譜面板を止まるまで下向きに開きます。

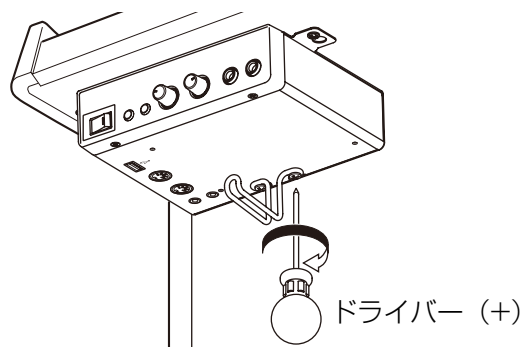
■ 倒すとき

開いていた譜面板を止まるまで上向きに戻します。



ヘッドホンハンガーの取り付け

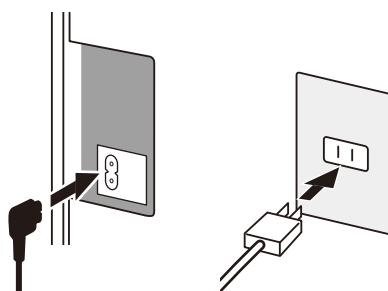
必要に応じて、付属の取り付けネジ（2個）でスイッチボックス底面に取り付けてください。



電源コードの接続

1 本機背面にある AC インレット端子に電源プラグを接続します。

2 家庭用コンセント（AC100V）に電源プラグを差し込みます。



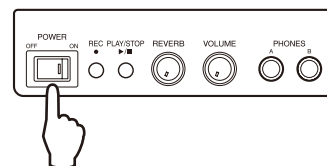
ご注意

- ・ 必ず付属の電源コードをご使用ください。
- ・ コードを引っ張ったり、コードの根元部分を曲げたりしないでください。また、コードがピンと張った状態やコードの根元部分が曲がった状態で使用しないでください。断線の原因になります。
- ・ 電源コードを抜き差しするときは、必ず本体の電源を切ってください。
- ・ 本体を移動させるときは、電源コードをコンセントおよび本体から外してください。
- ・ 長時間使用しないときは、電源コードをコンセントから抜いてください。

音量の設定

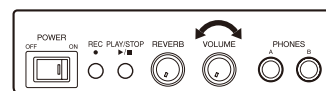
1 電源スイッチ（POWER）を押して電源を入れます。

緑色のランプが点灯します。



2 音量ツマミ（VOLUME）を回して音量を調節します。

右に回すと音量は大きく、左に回すと小さくなります。実際に鍵盤を弾きながら音量を調節してください。



ご注意

音量を上げると、スピーカー、ヘッドホンからのノイズが大きく聴こえることがありますが、故障ではありません。

演奏時の操作

ヘッドフォン（別売）を使う

ヘッドフォンを接続すると、本機のスピーカーからは音が出なくなります。夜間でも周りに迷惑をかけることなく練習することができます。

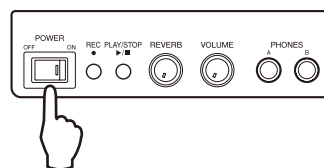
1 ヘッドフォン端子（PHONES：標準ジャック）にヘッドフォンを接続します。

ヘッドフォンは2本同時に接続できますので、演奏をもう一人の方が確認したり、連弾したりすることも可能です。



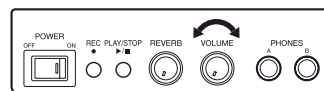
2 電源スイッチ（POWER）を押して電源を入れます。

緑色のランプが点灯します。



3 音量ツマミ（VOLUME）を回して音量を調節します。

右に回すと音量は大きく、左に回すと小さくなります。実際に鍵盤を弾きながら音量を調節してください。



ご注意

- ・ヘッドフォンを2本接続するときは、同じ仕様のもの（推奨品：ヤマハHPE-170）をご用意ください。違う仕様のものを使用すると、音量、音質が異なって聴こえる場合があります。
- ・ヘッドフォンを接続して音量を絞っても、鍵盤をたたく音は消えません。
- ・耳の保護のため、音量の上げすぎにはご注意ください。また、長時間の使用は避けてください。
- ・ヘッドフォンのケーブルを無理に引っ張ったり、プラグに極端な力を加えたりしないでください。ヘッドフォンが破損して、音が正しく出力されない原因になります。

音色を選ぶ

本機にはピアノ音色をはじめ、合計 10 種類の音色が内蔵されています。好みの音色を選んで演奏しましょう。

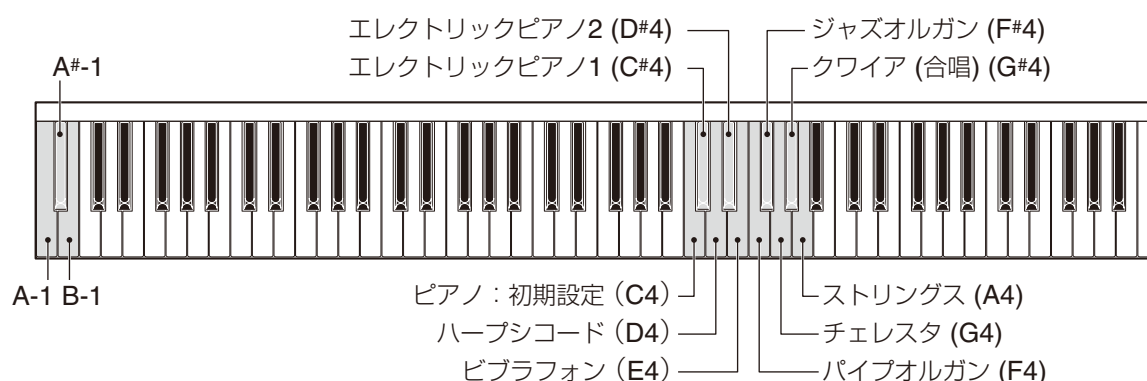
音色の種類	設定方法
ピアノ（初期設定）	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、C4 を押す。
ハーブシコード	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、D4 を押す。
ビブラフォン	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、E4 を押す。
パイプオルガン	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、F4 を押す。
チェレスタ	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、G4 を押す。
ストリングス	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、A4 を押す。
エレクトリックピアノ1	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、C#4 を押す。
エレクトリックピアノ2	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、D#4 を押す。
ジャズオルガン	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、F#4 を押す。
クワイア（合唱）	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、G#4 を押す。

メモ

- ・ 音色の選択は電源を入れてから行ってください。
- ・ 選んだ音色は電源を切ると解除され、次に電源を入れたときはピアノ音色に戻ります。
- ・ 音色の詳細は 26 ページ「音色一覧」をご参照ください。
- ・ 同時に 2 つの音色を選ぶこともできます。12 ページ「デュアルボイス」の項をご参照ください。

ご注意

- ・ 音色切り替えは演奏時のみで、再生音には使用できません。
- ・ ピアノ以外の音色では、ソフトペダルの機能は弱音機能ではなく、音色バリエーションの切り替えとなります。
- ・ 音色の切り替えに使用するため、ピアノ以外の音色では、最低音 3 キーの音量を意図的に下げています。



■ 音色のバリエーション

ピアノ以外の音色を選んでいるときは、音に変化をつけたバリエーションをお楽しみいただけます。バリエーションの詳細は 26 ページ「音色一覧」をご参照ください。

ソフトペダル（一番左端のペダル）を踏んで、ノーマル音色とバリエーション音色を切り替えます。

切り替え時に PLAY/STOP ランプが瞬間的に点灯します。緑色のときはノーマル音色が、橙色のときはバリエーション音色が設定されたことを示します。

音色のバリエーションは音色ごとに切り替えでき、電源を切ると解除されます。

■ デュアルボイス

2つの音色を重ねて演奏する機能です。

同時に 2 つの鍵盤を押して 2 つの音色を選びます。

ご注意

デュアルボイス演奏では2つの音を重ねるため、同時発音数が半分に減ります。

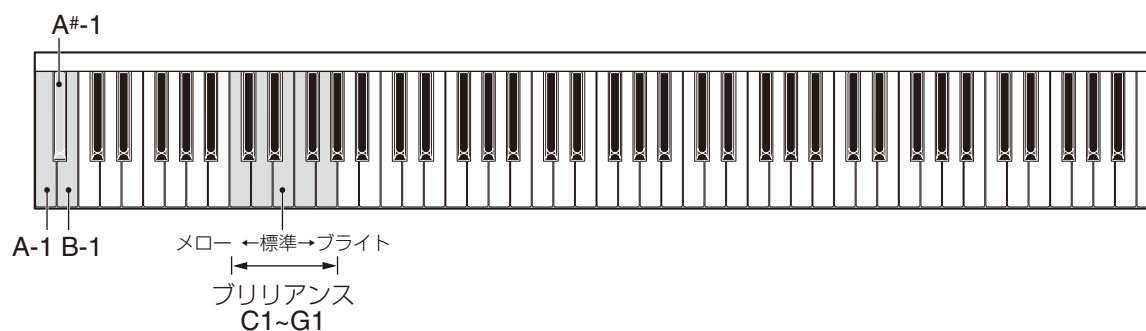
ブリリアンスを調整する

メロー（柔らかくまろやかな音）からブライト（明るく鋭い音）の間で音質を調整します。

操作	設定方法
ブリリアンスを調整する (5段階可変)	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、C1/D1/E1/F1/G1 のいずれかを押す。(E1 が標準で、C1 側はよりメローに、G1 側はよりブライトになります。初期設定はE1 です。)

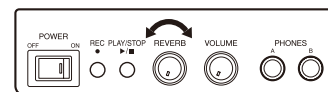
メモ

この設定はすべての音色に共通で反映され、電源を切っても保存されます。



リバーブをかける

リバーブとは、音に残響をつけて音の響きを豊かにすることです。リバーブの深さ（かかり具合）をリバーブ調整ツマミ（REVERB）で調節します。オフにしたい場合はツマミを左一杯まで絞ってください。

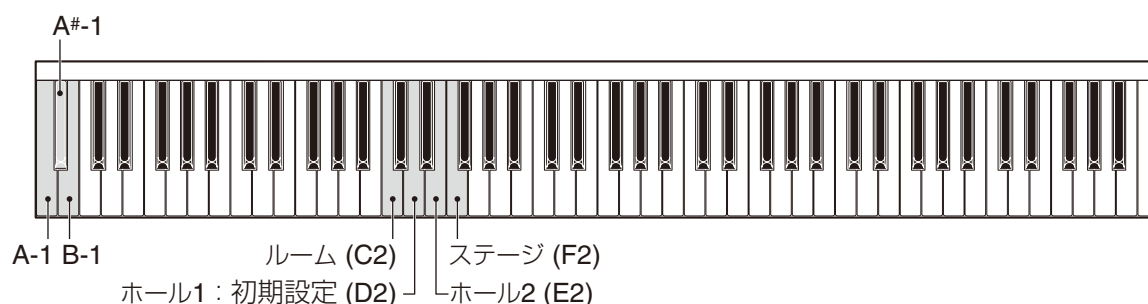


リバーブの種類を選ぶこともできます。

リバーブの種類	効果	設定方法
ルーム	響きやすい部屋の中で弾いたときのような音	A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら C2 を押す。
ホール 1 (初期設定)	小さなコンサートホールにいるような響き	A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら D2 を押す。
ホール 2	大きなコンサートホールにいるような響き	A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら E2 を押す。
ステージ	ステージにいるような響き	A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら F2 を押す。

メモ

リバーブの種類の設定は電源を切ると解除され、次に電源を入れたときはホール 1 に戻ります。



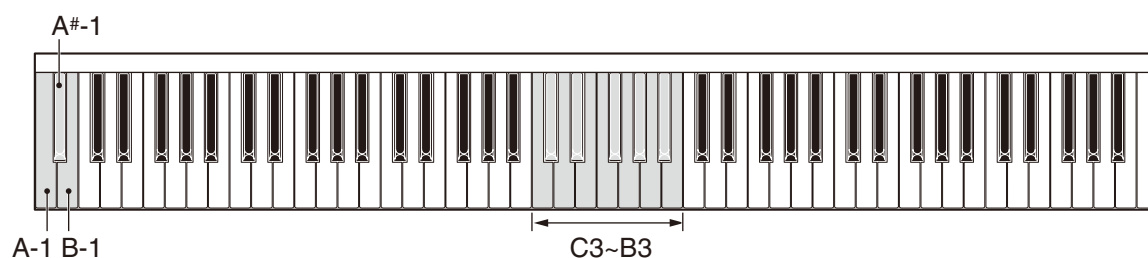
ピッチを合わせる

本機の工場出荷時のピッチ（音程）は、一般的な標準ピッチの A3=440 ヘルツに設定されています。声楽や他の楽器と合わせるときなど、あえてピッチを変更する場合は、半音を 100 セントとして上下 65 セントまで調整することができます。

操作	設定方法
ピッチを上げる	A-1 と B-1 を押しながら、C3 から B3 までのいずれかの鍵盤を押す。
ピッチを下げる	A-1 と A#-1 を押しながら、C3 から B3 までのいずれかの鍵盤を押す。
工場出荷時のピッチに戻す	A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら、C3 から B3 までのいずれかの鍵盤を押す。

メモ

ピッチの設定は、電源を切っても保存されます。



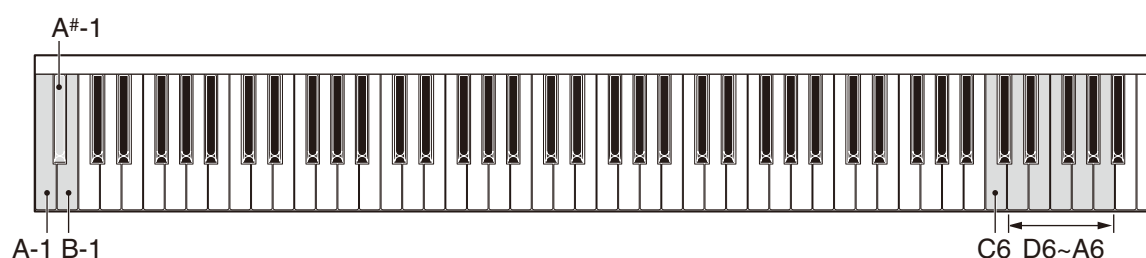
DDE（ダイナミック・ダンパー・エフェクト）をかける

DDE（ダイナミック・ダンパー・エフェクト）とは、アコースティックピアノのダンパーペダルを踏んだときのような共鳴効果のことです。

操作	設定方法
DDE をオフにする	A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら C6 を押す。
DDE をオンにする (5段階可変)	A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら、D6、E6、F6、G6、A6 いずれかの鍵盤を押す。 (効果は A6 が最も深く、D6 が最も浅くなります。初期設定は E6 です。)

メモ

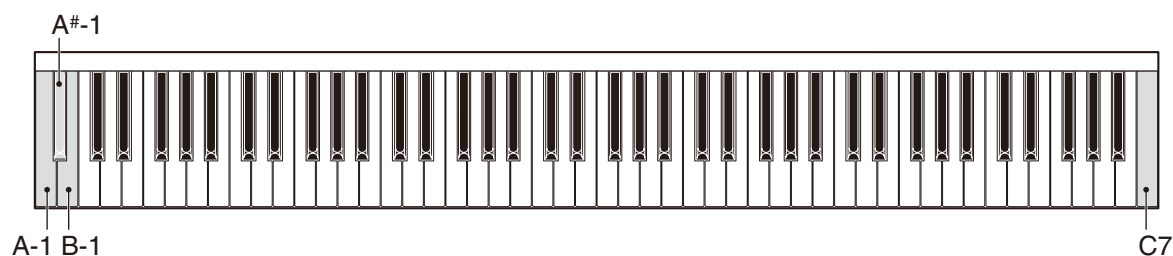
- ・ DDE の設定は、電源を切っても保存されます。
- ・ DDE をオフにしても、ダンパーペダルを踏んだときのように音は伸びますが、共鳴効果はありません。



すべての設定を工場出荷時の値に戻す (オールリセット)

すべての設定を、一度に工場出荷時の値に戻すこと（オールリセット）ができます。

A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら C7 (いちばん右の白鍵) を約 1 秒間押して、一斉に鍵盤を戻します。音色のバリエーション、ブリリアンス、リバーブの種類、ピッチ、DDE の設定が工場出荷時の値に戻ります。内蔵メモリーに録音した曲は残ります。



録音と再生

演奏を録音する

本機は、内蔵メモリーに1曲分の録音ができます。

メモ

- ・ 録音の容量は約65キロバイト（約21,000音符）分で、目安としては標準的な曲で約25分、音符の密度の高い（激しい）曲で5分です。
- ・ 録音には演奏時に選ばれている音色の情報も保存されます。
- ・ 録音した曲は、電源を切っても、オールリセットをしても保存されます。

ご注意

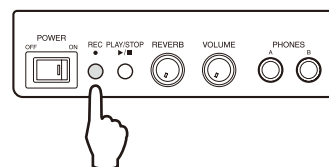
- ・ 新規録音時には以前に録音した曲は消去されます。ただし、録音待機状態で何も演奏せずにキャンセルしたとき（下記手順1）は、以前に録音した曲は消去されません。消去したくない曲のデータは、USBメモリーで必ずバックアップを取ってください。詳細は18ページ「録音した曲をUSBメモリーに保存する」をご参照ください。
- ・ USBメモリー接続時は録音できません。あらかじめ外しておいてください。

1 録音ボタン（REC）を押します。

本機は録音待機状態になり、RECランプが赤く点灯、PLAY/STOPランプが緑色に点滅します。

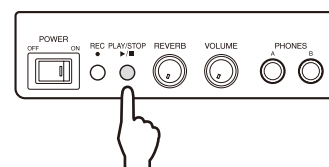
メモ

ここでもう一度録音ボタン（REC）を押すと、録音待機はキャンセルされ、通常の状態に戻ります。



2 再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押します。

PLAY/STOPランプが緑色に点灯し、録音を開始します。



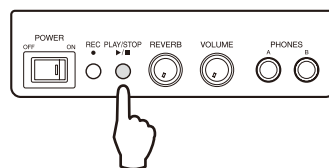
3 演奏を開始します。

録音中に内蔵メモリーの残量が少なくなるとチャイムが鳴ります。残量がなくなると、チャイムが早く鳴り、自動的にデータ書き込みを開始します。

4 演奏を終了し、再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押します。

録音ボタン（REC）を押しても同様に録音が終了します。RECランプが素早く点滅し、データが書き込みされます。終了するとRECランプが消灯します。

データの書き込みには数秒から数十秒かかります。



ご注意

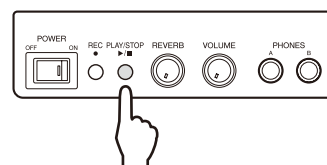
RECランプ点滅中は電源を切らないでください。内蔵メモリーやデータが壊れるおそれがあります。

内蔵メモリーに録音した曲を再生する

本機は内蔵メモリーに録音した曲を再生できます。

再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押します。

PLAY/STOP ランプが緑色に点灯し、再生を開始します。



■ 再生を停止するには

再生中に再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押します。

■ 一時停止するには

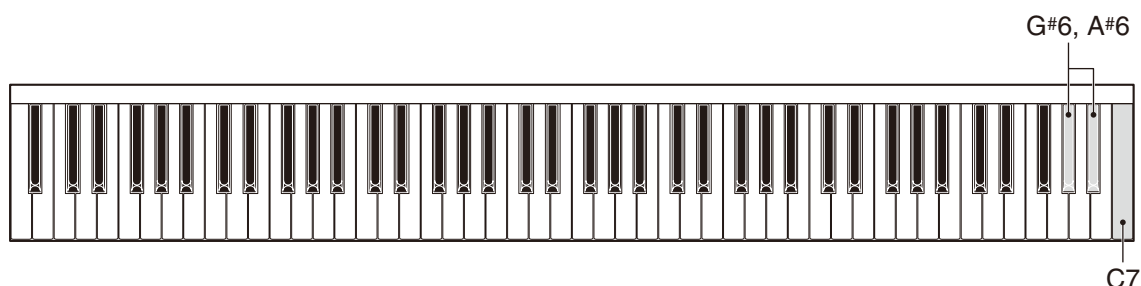
再生中に C7 を押します。PLAY/STOP ランプが点滅します。

再生を再開するには、C7 が再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押します。

■ 早送りするには

再生中または一時停止中に、G#6 を押しながら A#6 を押します。A#6 を押している間早送りになり、PLAY/STOP ランプが速く点滅します。

A#6 を離すと操作前の状態（再生または一時停止）に戻ります。



メモ

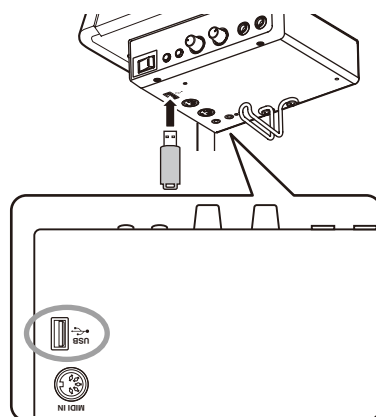
- ・ 再生、一時停止中には録音ボタン（REC）は反応しません。
- ・ USBメモリーが接続されている場合はUSBメモリーに保存されている曲を再生します。詳細は19ページ「USBメモリーの曲を再生する」をご参照ください。
- ・ 再生する曲がない場合は、3連のチャイム音が鳴ります。

USB メモリーを接続する

本機に市販のUSB メモリーを接続して、内蔵メモリーに録音した曲を保存したり、USB メモリー内に保存した曲を再生したりすることができます。

スイッチボックス底面左手の USB 端子に USB メモリーを接続します。

自動的に USB メモリーのチェックが始まります。チェック中はPLAY/STOP ランプが橙色の早い点滅になり、終了すると薄い橙色に変わります。



ご注意

- ・ ヤマハでは、市販のUSBメモリーの動作保証はいたしません。動作確認済みの製品については弊社ウェブサイト (<http://www.yamaha.co.jp/product/piano-keyboard/index.html>) をご確認ください。
- ・ データの保存中にUSBメモリーを抜き差ししたり、電源を切ったりしないでください。故障の原因になることがあります。
- ・ USBメモリーを頻繁に抜き差ししないでください。故障の原因になることがあります。
- ・ USBメモリーを接続しているときは、足に当たって破損しないよう十分ご注意ください。
- ・ USB端子に異物を入れないでください。使用できなくなります。
- ・ USBメモリーを使用するまえに、メモリーにプロテクトやソフトセキュリティがかかっていないかどうか確かめください。プロテクトがかかっていると、メモリーにアクセスできません。
- ・ 楽器本体上ではUSB1.1に対応していますが、USB2.0の機器を接続して使用できます。ただし転送スピードはUSB1.1相当になりますので、ご了承ください。

録音した曲を USB メモリーに保存する

大切な曲のデータは、USB メモリーでバックアップを取ったうえで、コンピューターなどに保存することをおすすめします。USB メモリーに保存しておくで衝撃などでデータが消えるおそれがあります。

1 本機に USB メモリーを接続します。

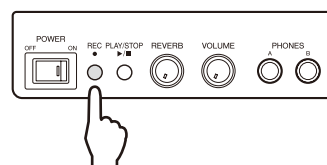
PLAY/STOP ランプが橙色に点滅し、メモリーの内容チェックが終わると薄い橙色に点灯します。

2 録音ボタン (REC) を押します。

本機は転送待機状態になり、REC ランプが赤く点灯、PLAY/STOP ランプが橙色に点滅します。

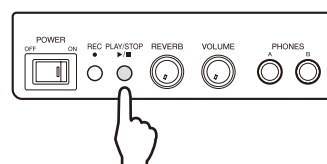
メモ

ここでもう一度録音ボタン (REC) を押すと、転送待機はキャンセルされ、通常の状態に戻ります。



3 再生／停止ボタン (PLAY/STOP) を押します。

PLAY/STOP ランプが速い点滅になり、内蔵メモリーから USB メモリーへのデータの保存を開始します。データ形式を変換しながら保存するため時間がかかります (65 キロバイトのフルサイズで約 3 ～ 4 分)。保存が終了すると REC ランプは消灯し、PLAY/STOP ランプは薄い橙色に戻ります。



メモ

- ・ 曲のデータは、USB メモリーの「USER FILES」というフォルダの中に「USERSONG**.MID」というファイルとして、最大 50 曲保存されます。**とは 00 ～ 49 の数字で、保存する順番に増えていきます。
- ・ 曲が溜まり、「USERSONG49.MID」まで達すると、本機ではこれ以上の保存はできず、エラーを通知します。
- ・ フォルダ内に「USERSONG50.MID」～「USERSONG99.MID」というファイルが 1 つでも存在する場合もエラーとなり、保存できません。
- ・ ファイルの削除は、USB メモリーをコンピューターに接続して実施してください。本機では削除することができません。

ご注意

USB メモリーからコンピューターへデータを移動する際、ファイル名が同じ場合、過去に保存したファイルに上書きされてしまうおそれがあります。上書きしてはいけないファイルの場合は、ファイル名を変更するなどして、上書きされないように操作をしてください。

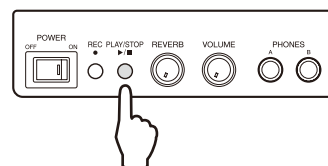
USB メモリーの曲を再生する

本機にUSBメモリーを接続した状態で再生の操作（16ページ「内蔵メモリーに録音した曲を再生する」）をすると、USBメモリーに最後に保存した曲を1曲のみ再生します。複数保存されている曲を最初から再生したり、選んで再生したりすることもできます。

■ 本機で最後に保存した曲を1曲のみ再生するには

USBメモリーを本機に接続した状態で、再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押します。

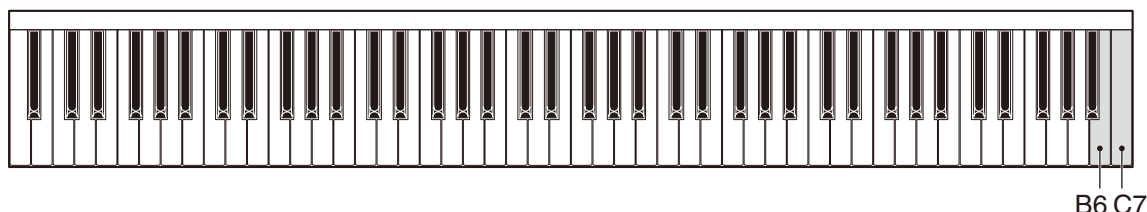
USBメモリー内に保存したファイルが見つからないときは、ほかに再生可能な曲（スタンダードMIDIファイル）があればそれを再生します。再生可能な曲がない場合は、停止状態に戻ります。



■ 複数保存されている曲を再生するには

1 USBメモリーを本機に接続した状態で、B6とC7（右端の白鍵2つ）を同時に押しながら電源を入れます。

2 電源を入れてから約1～2秒後に鍵盤を戻します。
自動的にUSBメモリーに最初に保存した曲から再生が始まります。



複数曲の再生を終了するには

電源を入れなおします。

聴きたい曲を選ぶには（ダイレクト選曲）

A-1を押しながら、C0からC#4間の選びたい曲番号に相当する鍵盤を押します。

- ・ USBメモリーの「USER FILES」フォルダにある「USERSONG**.MID」（**は00～49の数字）がC0からC#4間の左から順に割り当てられます。
- ・ 上記以外の鍵盤も同時に押してしまうと選曲されません。
- ・ 停止中に曲を選ぶと、次に再生するときに選んだ曲から始まります。

曲間を移動するには

ひとつ前の曲を選ぶにはF#6を、ひとつ後の曲を選ぶにはA#6を押します。

早送りするには

再生中または一時停止中に、G#6を押しながらA#6を押します。音を出しながら早送りができます。

一時停止するには

次に再生するときに、一時停止したところから再生を始めたいときに使用します。

再生中にC7を押します。また、再開するときもC7を押します。一時停止中は再生の再開／停止以外の操作はできません。

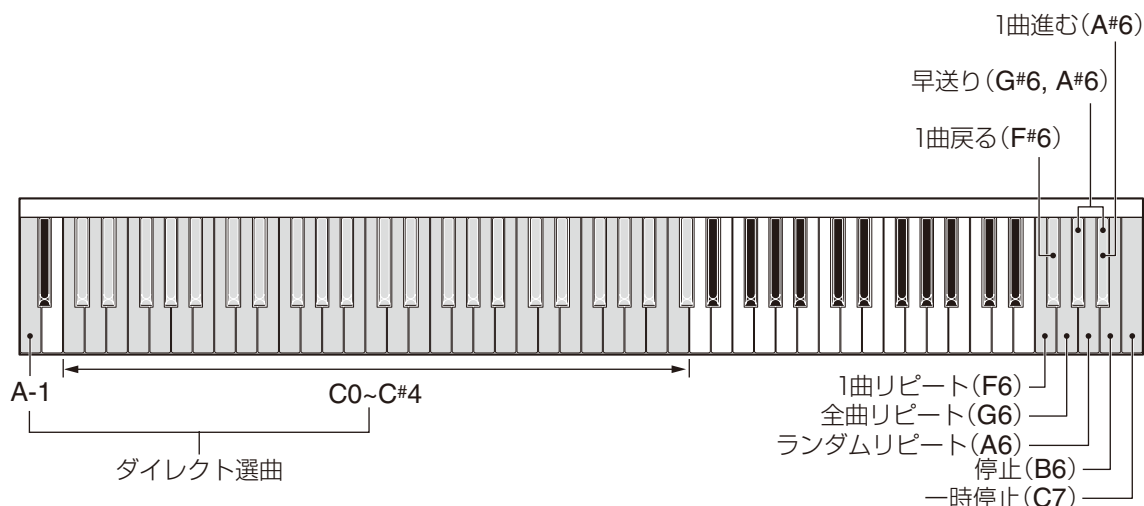
停止するには

次に再生するときに、1 曲目から再生を始めたいときに使用します。

再生中に B6 がスイッチボックス前面の再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押します。再開するにはスイッチボックス前面の再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押します。

リピート（繰り返し）モードを設定するには

1 曲リピートするには F6 を、全曲リピートするには G6 を、ランダム（任意の曲順で）リピートするには A6 を押します。初期設定は全曲リピートです。



メモ

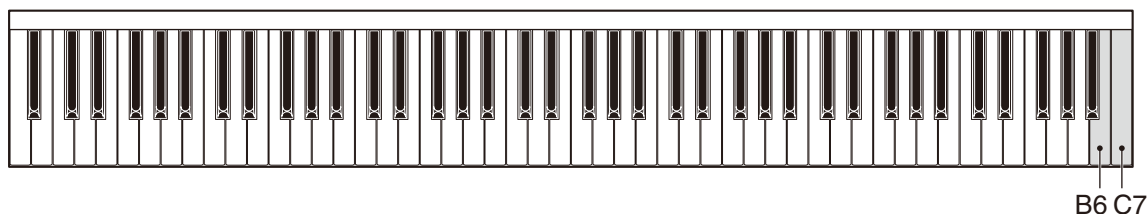
- ・ USB メモリー内の曲を最大 50 曲まで再生します。
- ・ 曲順は、USB メモリーの「USER FILES」フォルダにある「USER SONG**.MID」のなかで、** の 2 桁の数字（00～99）が小さいファイルから順に再生されます（通常は本機から USB メモリーへデータを保存した順に再生されます）。この曲数が 50 曲に満たない場合、「USER FILES」フォルダ内、ルートフォルダおよび 2 階層までのフォルダから MIDI ファイルを USB メモリーへのデータ保存順に探し、再生します。
- ・ USB メモリー内に再生する曲がない場合は、3 連のチャイム音が鳴ります。
- ・ 詳しい優先順序については、28 ページ「MIDI ファイルの再生順序」をご参照ください。
- ・ 漢字等全角文字が入ったファイル名はエラーとなり再生できません。
- ・ 本体への録音や USB メモリーへの保存をする場合は、電源を入れなおしてください。

試聴曲を再生する（試聴モード）

本機に内蔵されている試聴曲（ピアノ名曲 50 選）を再生できます。

1 B6 と C7（右端の白鍵 2 つ）を同時に押しながら電源を入れます。

2 電源を入れてから約 1 ～ 2 秒後に鍵盤を戻します。
自動的に第 1 曲目から再生が始まります。



B6 C7

試験モードを終了するには

電源を入れなおします。

聴きたい曲を選ぶには（ダイレクト選曲）

A-1 を押しながら、C0 から C#4 間の選みたい曲番号に相当する鍵盤を押します。

- ・ 各曲に対応する鍵盤については、27 ページ「試験曲一覧」をご参照ください。
- ・ 上記以外の鍵盤も同時に押してしまうと選曲されません。
- ・ 停止中に曲を選ぶと、次に再生するときに選んだ曲から始まります。

曲間を移動するには

ひとつ前の曲を選ぶには F#6 を、ひとつ後の曲を選ぶには A#6 を押します。

早送りするには

再生中または一時停止中に、G#6 を押しながら A#6 を押します。音を出しながら早送りができます。

一時停止するには

次に再生するときに、一時停止したところから再生を始めたいときに使用します。

再生中に C7 を押します。また、再開するときも C7 を押します。一時停止中は再生の再開／停止以外の操作はできません。

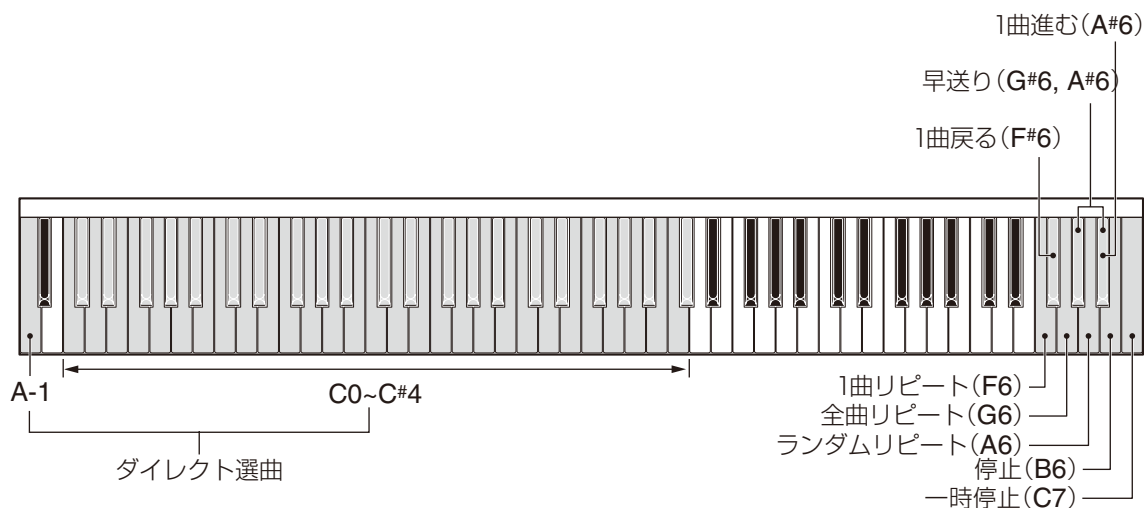
停止するには

次に再生するときに、1 曲目から再生を始めたいときに使用します。

再生中に B6 かスイッチボックス前面の再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押します。再開するにはスイッチボックス前面の再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押します。

リピート（繰り返し）モードを設定するには

1 曲をリピートするには F6 を、全曲をリピートするには G6 を、ランダム（任意の曲順で）リピートするには A6 を押します。初期設定は全曲リピートです。



メモ

- ・ 試験曲モードにしたあと、再生・停止はスイッチボックスの再生／停止ボタン（PLAY/STOP）でも操作できます。
- ・ 鍵盤を戻すタイミングによっては、試験モードにならないことがあります。
- ・ 試験モードでは録音やUSB メモリーへの保存はできません。電源を入れなおしてください。
- ・ 試験曲を USB メモリーに転送することはできません。

他の機器との接続

他のオーディオ機器と接続する

ご注意

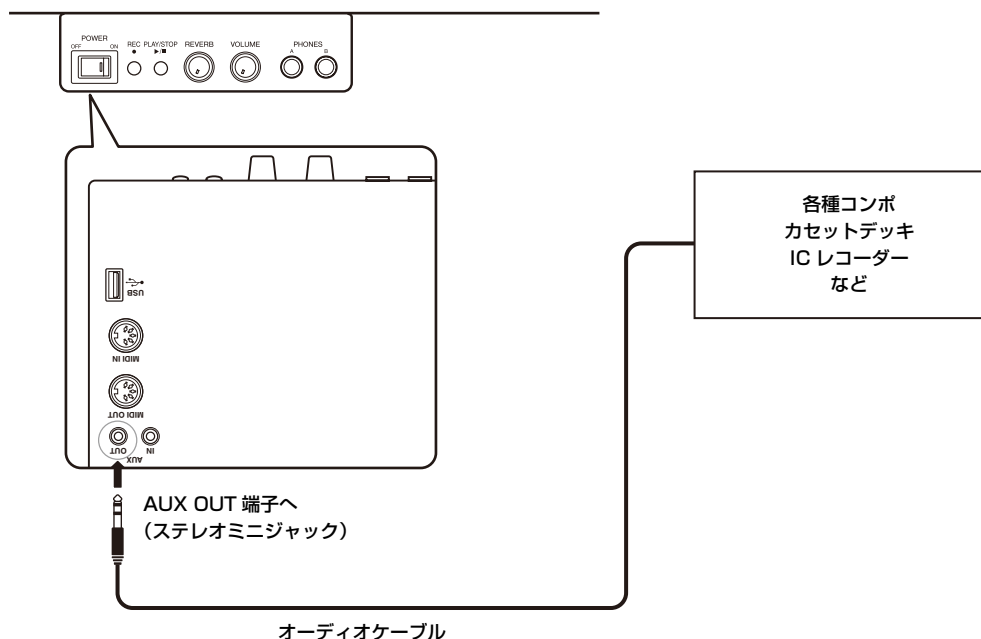
本機と他の機器との接続は、必ず両方の電源を切った状態で行ってください。

メモ

本機の AUX IN/AUX OUT 端子はステレオミニジャックです。端子に対応したケーブルでない場合は変換アダプターが必要になります。ケーブル、アダプターは抵抗の無いものをお使いください。

■ AUX OUT 端子の使用例

各種コンポ、カセットデッキや IC レコーダーに接続すると
本機の演奏を録音できます。



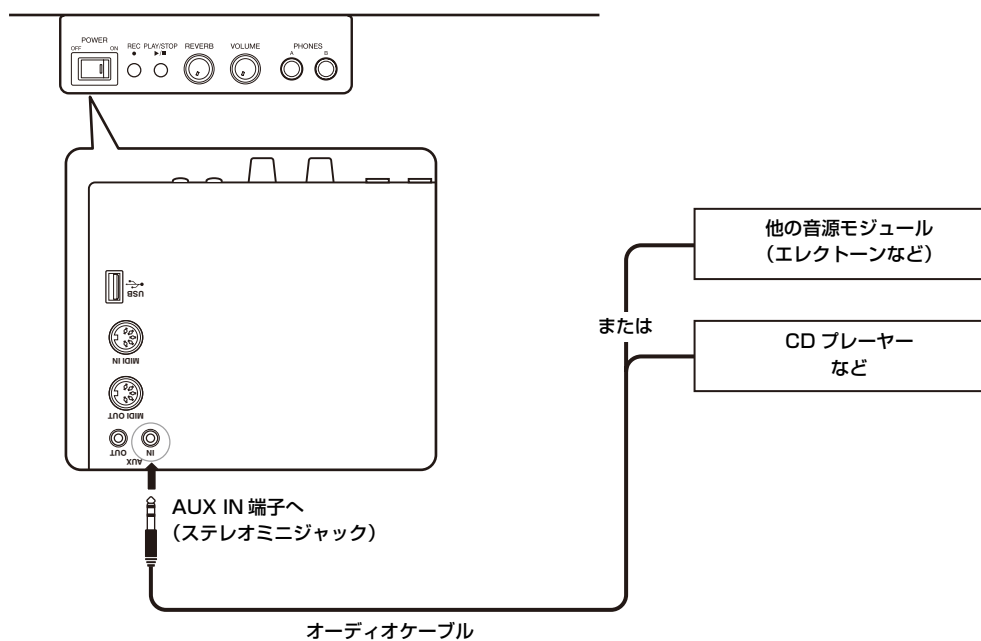
ご注意

AUX OUT 端子をアナログ録音機器の入力端子に接続したときは、同時に接続先機器の出力端子と本機の AUX IN 端子を接続しないでください。オーディオ信号のフィードバック（発振）が起こり、両機器の故障の原因となります。

■ AUX IN 端子の使用例

他の音源モジュールや再生機器（CD プレーヤーなど）に接続すると
接続機器からの入力音声に合わせて演奏ができます。

本機の音量ツマミ（VOLUME）はAUX IN端子から入力された音と、本機の電子音の両方を調整
できます。2つの音声のバランスは、接続機器の出力音量で調整してください。

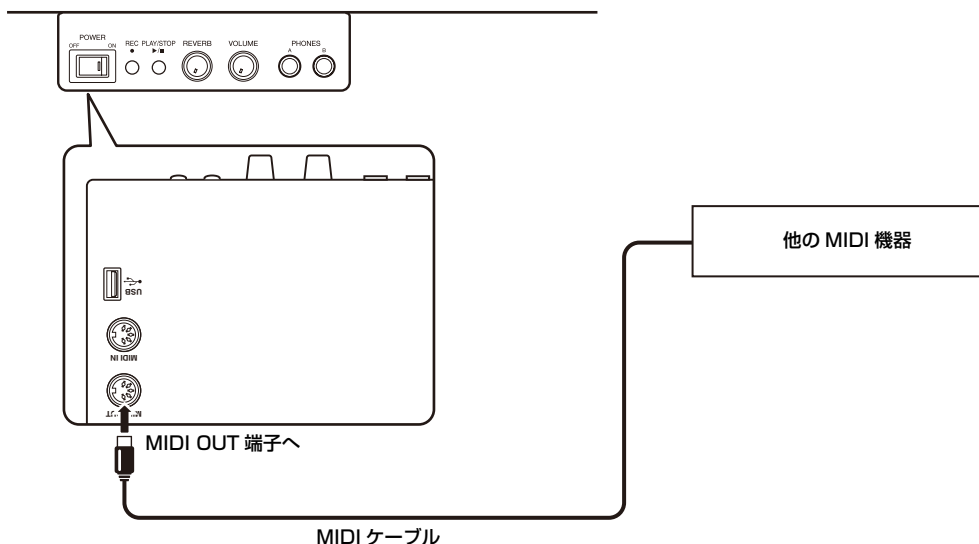


他の MIDI 機器と接続する

■ MIDI OUT 端子の使用例

他の MIDI 楽器に接続すると

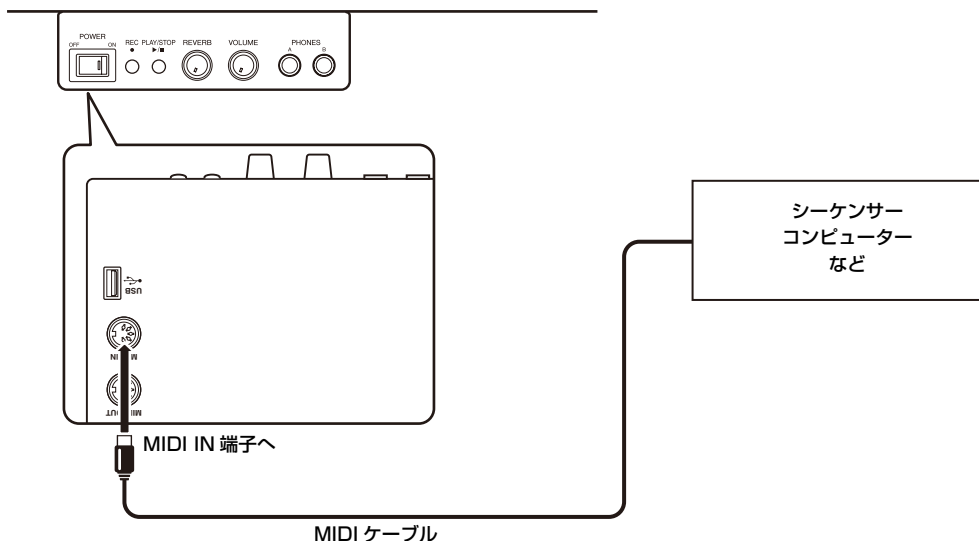
本機の演奏を、シンセサイザーなど他の MIDI 機器の音源モジュールで再生できます。



■ MIDI IN 端子の使用例

シーケンサーやコンピューターに接続すると

接続機器から演奏情報を受け取り、本機の音源で再生できます。



メモ

鍵盤、ペダルの演奏情報のほか、音色切り替え、リバーブの深さの情報を送受信します。MIDI 送信は 1 チャンネル、受信は 1、2 チャンネルの両方となります。

その他の情報

故障かな？と思ったら

本機が正常に動作しない場合は、以下の項目をご確認ください。下記を試しても改善されなかったり、下記以外の異常がある場合は、お買い上げ店または最寄のヤマハ特約楽器店までご連絡ください。ご自分で本機の内部を開けたり、分解、改造したりしないでください。

🔊 電源を入れても音がしない。

- ー 電源コードが抜けているかもしれません。確実に差し込んでください。
- ー 音量ツマミが左一杯の位置になっているかもしれません。適正位置に調整してください。標準音量は、音量ツマミが時計の3時の位置になるように設定されています。

🔊 電源ランプは点灯するが音が出ない、ペダルがきかない。

- ー スイッチボックス背面にあるキーセンサーとペダルセンサー端子の接続が抜けているかもしれません。スイッチボックス下側の印字 (KEY、PDL) にそれぞれ対応する端子 (KEY、PDL) を確実に差し込んでください (7 ページ)。

🔊 市販のヘッドフォンで聴くと音のバランスが異なる。

- ー ヘッドフォンの種類によってそれぞれ特性が異なるため、ヘッドフォンによってはバランスが異なることがあります。

🔊 市販のヘッドフォンで聴くと音量が異なる。

- ー ヘッドフォンの種類によってそれぞれ特性が異なるため、ヘッドフォンによっては音量が異なることがあります。

🔊 演奏時にピアノの本体からカタカタという音がする。

- ー 故障ではありません。鍵盤をたたく際の打鍵音です。

🔊 演奏の連打時に演奏と異なる強音が発音する。

- ー DUP シリーズの構造上発生する場合があります、故障ではありません。

🔊 鍵盤が戻りにくくなる。

- ー アコースティックピアノのアクションを使用しているため、温度や湿度の変化によって、動きが鈍くなることがあります。アクションの調整が必要ですので、お買い上げ店または最寄のヤマハ特約楽器店までご連絡ください。

🔊 リバースがかからない。

- ー リバース深さツマミが、左一杯の位置になっているかもしれません。適度な深さに設定してください (13 ページ)。

🔊 音が残るすぎる。(残響がかかりすぎる。)

- ー リバース設定、DDE 設定が深すぎるかもしれません。適度な深さに設定してください (13、14 ページ)。

🔊 他の楽器とピッチが合わない。

- ー 本機はピッチを調整して他の楽器に合わせることができます (13 ページ)。

🔊 再生も録音もしていないのにパネルのボタンが点灯している。

- ー USB メモリーが接続されているとき、ボタンが暗く点灯します (17、18 ページ)。

🔊 USB メモリーが反応しない。

- ー 一度本機から外し、再び接続してください。
- ー USB メモリーを端子に接続したときに PLAY/STOP ランプが橙色に点滅するか確認します。ランプが点滅しなければ、そのメモリーは壊れている可能性があります (17 ページ)。
- ー お使いの USB メモリーが動作確認済みの機種かどうかを確認してください (17 ページ)。

🔊 試聴モードで電源を入れたとき、USB メモリーを接続しているのに内蔵試聴曲が少し再生され、そのあとに USB メモリーの曲が再生される。

- ー ご利用の USB メモリーによっては認識に時間がかかり、認識中に内蔵試聴曲が再生されることがありますが、故障ではありません。

🔊 USB のデータを再生できない。

- ー 曲のデータ容量が大きすぎるとロードできず、再生するとエラーとなる場合がありますが、故障ではありません。

エラー通知について

本機では、以下のようなエラーが発生したときに3回連続のチャイム音と2つのランプの速い点滅でお知らせします。エラー通知は、録音ボタン（REC）か再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押すと停止します。

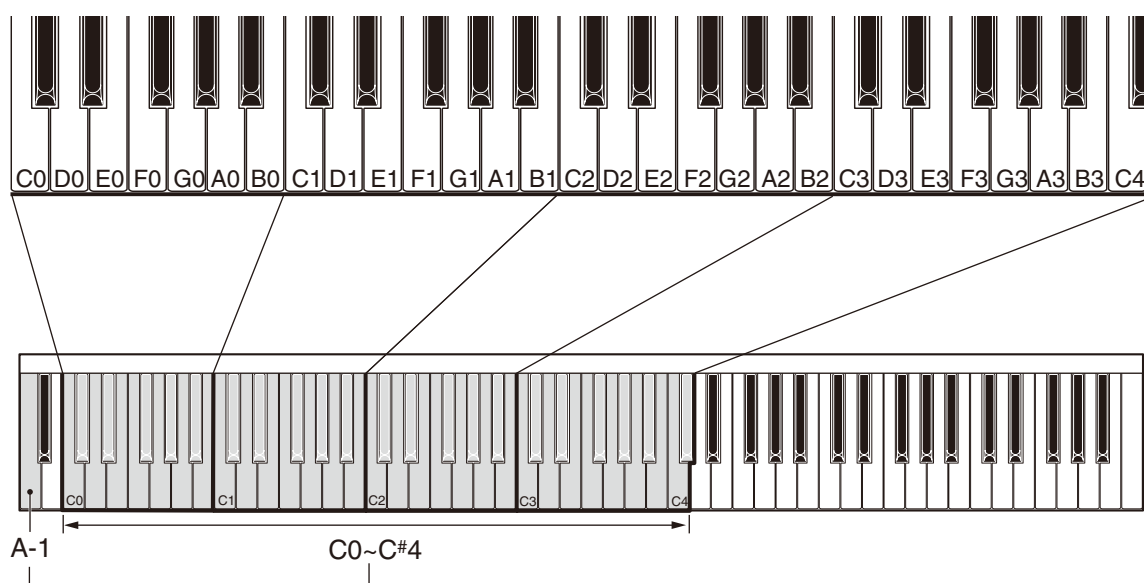
- ・ USBメモリーが壊れているのでアクセスできません。
- ・ 曲データが壊れています。
- ・ ファイルが大きすぎて読み込みできません。
- ・ 処理中に電源が切られたため、内蔵メモリーが初期化されました。ご自身で録音した曲が消去されています（初期化中は、エラー通信を停止することはできません）。
- ・ USBメモリーの容量がいっぱいで、曲を保存できません。
- ・ USBメモリーがライトプロテクト（書き込み禁止）されているようです。

音色一覧

音色名	鍵盤	音色の特長	バリエーション
ピアノ	C4	フルコンサートグランドピアノCFIISからサンプリングしました。繊細なピアノシモから、迫力あるフォルテシモまで、幅広い表現が可能です。ダンパーペダル使用時の弦の共鳴による広がり感も再現しています。	ピアノではバリエーション設定はありません。 左ペダルは、ソフト（シフト）ペダルの効果がかかります。
ハープシコード	D4	バロック音楽で使用された音です。タッチによって音量、音色が変化しません。鍵盤を離れた時に独特の音が発生するところもリアルに表現しています。	オクターブ上の弦の音がミックスされ、より華やかな音となっています。
ビブラフォン	E4	比較的柔らかなマレットで叩いたビブラフォンの音です。	ファンを回転させて、ビブラートをかけた音です。
パイプオルガン	F4	バッハの「トッカータとフーガ」で有名な壮麗なパイプオルガンの音です。	バロック時代の教会音楽に適した、プリンスバル系の落ち着いた音のあるパイプオルガンの音です。
チェレスタ	G4	チャイコフスキー「くるみ割り人形」の中の「こんぺいとうの踊り」などで有名な鍵盤式の鉄琴です。オルゴールのようなかわいらしい音が魅力です。ピアノよりも音域を1オクターブ上にしてありますので、チェレスタならではの魅力的な高音を楽しむことができます。	音域をピアノと同じに合わせてあります。
ストリングス	A4	雰囲気一杯の弦楽合奏の音です。ピアノ音とデュアルで音を重ねても効果的です。	音の立ち上がりを少しなだらかにしました。
エレクトリックピアノ1	C#4	FM シンセサイザーによる電子ピアノで、ポップスで広く使用されるタイプの音です。ピアノ音とデュアルで音を重ねても効果的です。	コーラス効果が付加されて、空間的な広がり感が増します。
エレクトリックピアノ2	D#4	金属板をハンマーで叩く電気ピアノの音です。弱打の柔らかい音から強打のやや歪んだ音まで、ダイナミックに変化します。ポップスやジャズで多用されています。	フェイザー効果が付加されて、空間的な広がり感が増します。
ジャズオルガン	F#4	歯車回転式の電気オルガンの音です。ジャズやロックで広く用いられます。	左ペダルを踏むと、ロータリースピーカー（ビブラート）のスピードが、高速に切り替わります。
クワイア	G#4	空間に広がる合唱の音です。ピアノ音とデュアルで音を重ねても効果的です。	音の立ち上がりを少しなだらかにしました。

試聴曲一覧

曲番号 (鍵盤)	曲名／作曲者名	曲番号 (鍵盤)	曲名／作曲者名
1(C0)	インベンション第1番／バッハ	26(C#2)	革命のエチュード／ショパン
2(C#0)	インベンション第8番／バッハ	27(D2)	小犬のワルツ／ショパン
3(D0)	ガボット／バッハ	28(D#2)	ワルツ第7番／ショパン
4(D#0)	前奏曲(平均律第1巻第1番)／バッハ	29(E2)	ワルツ第9番「告別」／ショパン
5(E0)	メヌエット長調／バッハ	30(F2)	夜想曲第2番変ホ長調／ショパン
6(F0)	かっこう／ダカン	31(F#2)	トロイメライ／シューマン
7(F#0)	ピアノソナタ第15番第1楽章／モーツァルト	32(G2)	楽しき農夫／シューマン
8(G0)	トルコ行進曲／モーツァルト	33(G#2)	乙女の祈り／バダジェフスカ
9(G#0)	メヌエット長調／モーツァルト	34(A2)	人形の夢と目覚め／オースティン
10(A0)	リトル・セレナーデ／ハイドン	35(A#2)	アラベスク／ブルグミュラー
11(A#0)	ソナタ第1番 終楽章「無窮動」／ウェーバー	36(B2)	牧歌／ブルグミュラー
12(B0)	エコセーズ／ベートーヴェン	37(C3)	貴婦人の乗馬／ブルグミュラー
13(C1)	エリーゼのために／ベートーヴェン	38(C#3)	愛の夢第3番／リスト
14(C#1)	トルコ行進曲／ベートーヴェン	39(D3)	花の歌／ランゲ
15(D1)	「悲愴」第2楽章／ベートーヴェン	40(D#3)	舟歌／チャイコフスキー
16(D#1)	「月光」第1楽章／ベートーヴェン	41(E3)	ヘ調のメロディ／ルビンシュタイン
17(E1)	ピアノソナタ第20番ト長調第1楽章／ベートーヴェン	42(F3)	ユーモレスク／ドヴォルザーク
18(F1)	即興曲作品90第2番／シューベルト	43(F#3)	タンゴ(スペインより)／アルベニス
19(F#1)	楽興の時第3番／シューベルト	44(G3)	エンターテイナー／ジョプリン
20(G1)	春の歌／メンデルスゾーン	45(G#3)	メイプル・リーフ・ラグ／ジョプリン
21(G#1)	狩人の歌／メンデルスゾーン	46(A3)	亜麻色の髪の乙女／ドビュッシー
22(A1)	幻想即興曲／ショパン	47(A#3)	アラベスク第1番／ドビュッシー
23(A#1)	雨だれの前奏曲／ショパン	48(B3)	月の光／ドビュッシー
24(B1)	黒鍵のエチュード／ショパン	49(C4)	夢／ドビュッシー
25(C2)	別れの曲／ショパン	50(C#4)	ケーキウォーク／ドビュッシー



試聴モード(20ページ)に切り替えたあと、A-1を押しながら、聴きたい曲番号に相当する鍵盤を押します。

各音色の MIDI データ（プログラムチェンジナンバー）

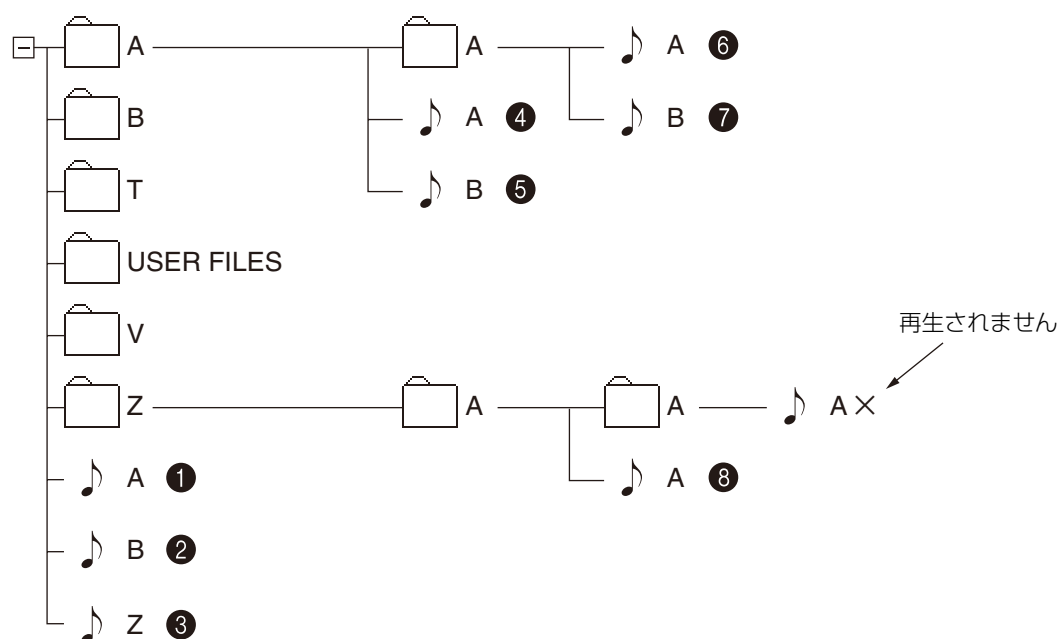
音色名	MSB	LSB	P.C.#
ピアノ	0	112	1
ハーブシコード	0	112	7
同上（バリエーション）	0	113	7
ビブラフォン	0	112	12
エレクトリックピアノ 1	0	112	6
エレクトリックピアノ 2	0	112	5
パイプオルガン	0	112	20
同上（バリエーション）	0	113	20
チェレスタ	0	112	9
同上（バリエーション）	0	113	9
ジャズオルガン	0	112	17
ストリングス	0	112	49
同上（バリエーション）	0	113	49
クワイア	0	112	53
同上（バリエーション）	0	113	53

MSB, LSB (Bank Select), 0～127

P.C.# = Program Change Number, 1～128

MIDI ファイルの再生順序

以下は、「USERSONG**.MID」が見つからない、あるいは50曲に満たない場合の、「USER FILES」検索後の再生順序例を示したものです。ルートおよび2階層までのフォルダから、USBメモリーへの保存順に MIDI ファイルを検索します。



仕様

鍵盤	鍵盤数	88 鍵（7 オクターブ 1/4）
	アクション	アップライトピアノアクション方式
ペダル		ソフトペダル、ソステヌートペダル、ダンパーペダル
センサーユニット	キーセンサー	非接触連続検出光センサー／グレースケールシャッター方式、88 鍵対応
	ペダルセンサー	ダンパーペダル連続検出方式
		ソフト／ソステヌートペダル ON/OFF 方式
音源／音色	音源方式	AWM 音源
	最大同時発音数※	64 音、ステレオサンプリング 32 音、16 音（ダンパーペダル共鳴効果あり）
	音色数	10
	音色	ピアノ、ハープシコード、ビブラフォン、パイプオルガン、チェレスタ、ストリングス、エレクトリックピアノ 1、エレクトリックピアノ 2、ジャズオルガン、クワイア（合唱）
機能		音量調整
		音色切り替え（10 種類）
		音色バリエーション切り替え
		デュアルボイス
		ブリリアンス調整（5 段階）
		リバーブ切り替え（ルーム、ホール 1、ホール 2、ステージ）
		リバーブ調整
		ピッチ調整（－ 65 セント～＋ 65 セント）
		DDE（ダンパーペダル共鳴）調整（5 段階）
		オールリセット
		録音
		再生
試聴曲		ピアノ名曲 50 選（プリセット曲）
端子	オーディオ	ヘッドフォン端子（標準ジャック×2）、AUX IN 端子（ステレオミニジャック）、AUX OUT 端子（ステレオミニジャック）
	MIDI	MIDI IN 端子、MIDI OUT 端子
	その他	USB 端子（USB TO DEVICE）、AC インレット端子
寸法（幅×高さ×奥行き）		149 × 102 × 50cm
重量		104kg
電源	定格電源電圧	AC100V、50/60Hz
	消費電力	70W
付属品		高低自在イス、電源コード、ヘッドフォンハンガー、ヘッドフォンハンガー取り付けネジ、取扱説明書、楽譜集「ピアノで弾く名曲 50 選」、保証書

- ※ 64 音：エレクトリックピアノ 2、ジャズオルガン
16 音：パイプオルガン（バリエーションを除く）、ハープシコード（バリエーションのみ）
32 音：上記以外の音色

お手入れについて

■ 外装のお手入れ

- ・ 表面に付いたホコリはピアノ用の羽毛で払うか、または柔らかい布で軽く拭き取ります。
- ・ 汚れは柔らかい布に水をしみ込ませ、固くしぼって拭き取ったあと、乾いた布で乾拭きします。
- ・ 強く拭いたり、拭きすぎたりすると、塗装に悪影響を与えることがありますのでご注意ください。

DUP-8 をご購入のお客様

- ・ 外装のお手入れにピアノユニコンは使用しないでください。
- ・ 汚れが目立つときは、中性洗剤を布にしみ込ませて汚れを拭き取ったあと、水をしみ込ませ固くしぼった布、乾いた布の順に、中性洗剤をしっかりと拭き取ります。

DUP-22B をご購入のお客様

外装の艶出しをするときは、ピアノユニコン（別売）のご使用をおすすめします。

■ 鍵盤のお手入れ

- ・ 鍵盤の汚れが目立つときは、ヤマハピアノキークリーナー（別売）のご使用をおすすめします。
- ・ 汚れた手で弾かない習慣をつけましょう。

音楽を楽しむエチケット

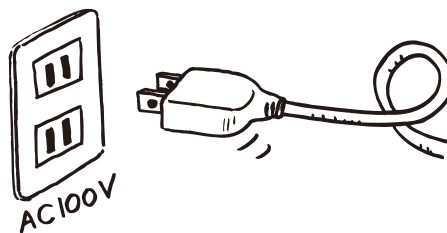
楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓をしめたり、ヘッドフォンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

取り扱いについて

ここに記載されているイラストは、お客様が購入された製品と形状が異なる場合があります。

■ 電源について

必ず AC100V (50Hz または 60Hz) のコンセントに接続してください。AC100V 以外のコンセントには接続しないでください (本機は日本国内仕様です)。長期間で使用にならないときは、電源コードをコンセントから抜いてください。



■ 電源コード、ヘッドフォン等のコード類について

コードの上に物を置いたり、ピアノの蓋に挟みこんだりしないでください。コードを抜き差しするときは、必ず電源を切ってから行ってください。コードを抜くときは、断線やショートを防ぐため、必ずプラグを持って行ってください。



■ 落雷のおそれがあるときは？

早めにコンセントから電源コードを抜き取ってください。



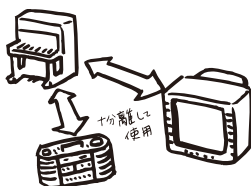
■ 水に濡れたときは？

万一雨がかったり、水をこぼしてしまったときは、すぐ電源プラグを抜き、販売店にご連絡ください。また、煙やスプレーなどがかからないよう、ご注意ください。



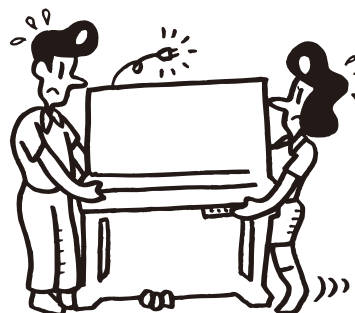
■ 他の電気機器への影響は？

本機の近くでラジオ・テレビなどを同時に使用すると、ラジオ・テレビ側で雑音などが生じることがあります。十分離してご使用ください。



■ 移動するときは？

電源コードなど、コード類をすべて外してから移動します。ピアノの運搬・移動は専門の業者に依頼することをおすすめします。



■ 故障かな？と思ったら

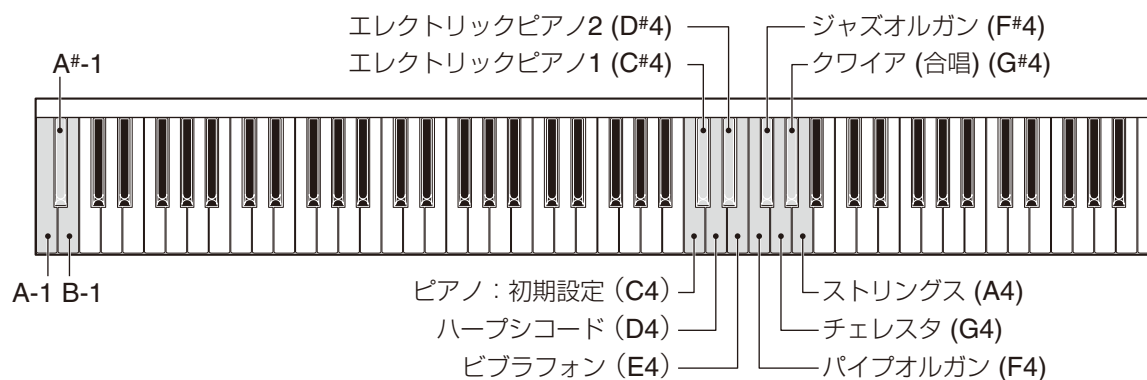
電源コードがきちんと接続されていないかったり、意外なところで操作をしている場合があります。本書 25 ページ「故障かな？と思ったら」をご参照ください。



鍵盤操作一覧

■ 音色を選ぶ

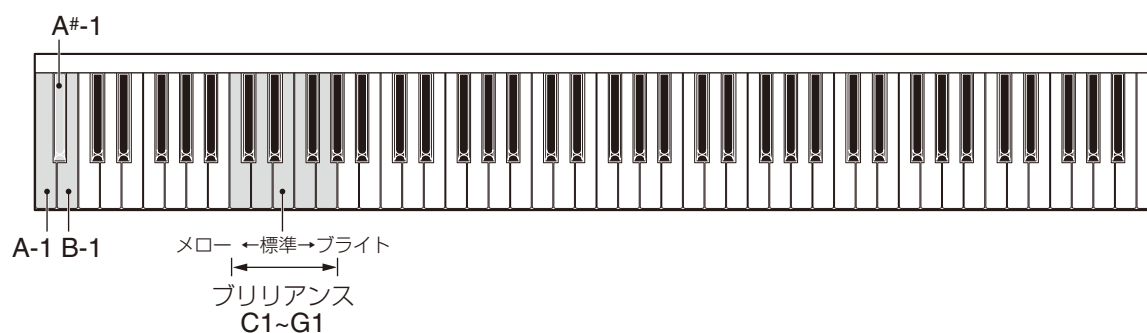
音色の種類	設定方法
ピアノ（初期設定）	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、C4 を押す。
ハーブシコード	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、D4 を押す。
ビブラフォン	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、E4 を押す。
パイプオルガン	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、F4 を押す。
チェレスタ	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、G4 を押す。
ストリングス	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、A4 を押す。
エレクトリックピアノ1	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、C#4 を押す。
エレクトリックピアノ2	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、D#4 を押す。
ジャズオルガン	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、F#4 を押す。
クワイア（合唱）	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、G#4 を押す。



⇒詳しくは 11 ページをご覧ください。

■ ブリリアンスを調整する

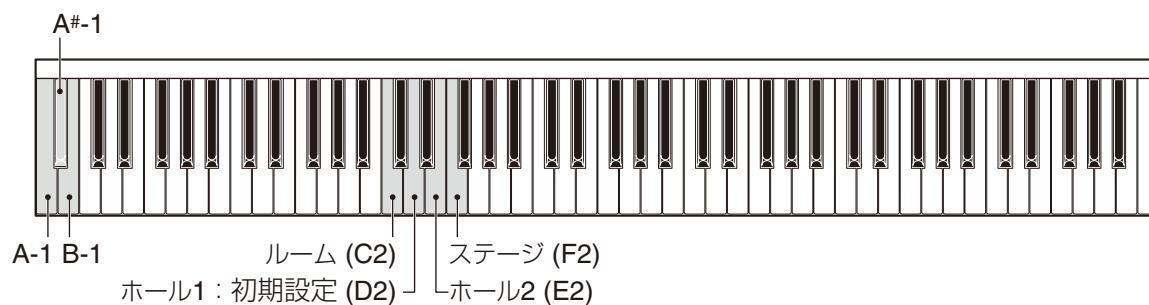
操作	設定方法
ブリリアンスを調整する (5段階可変)	A-1、A#-1、B-1 を押しながら、C1/D1/E1/F1/G1 のいずれかを押す。(E1 が標準で、C1 側はよりメローに、G1 側はよりブライトになります。初期設定はE1 です。)



⇒詳しくは 12 ページをご覧ください。

■ リバースをかける

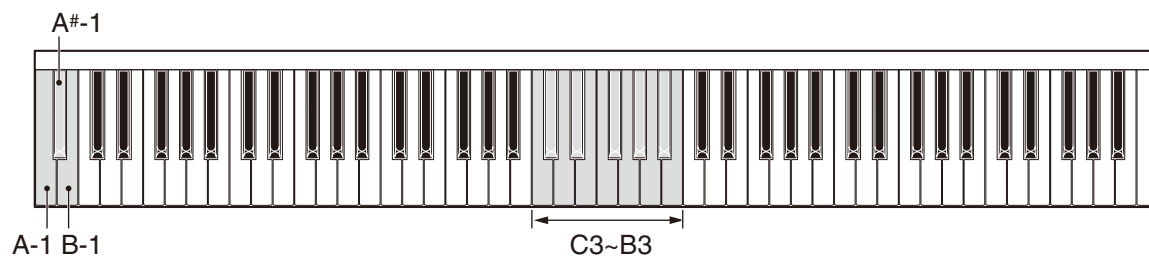
リバースの種類	効果	設定方法
ルーム	響きやすい部屋の中で弾いたときのような音	A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら C2 を押す。
ホール 1 (初期設定)	小さなコンサートホールにいるような響き	A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら D2 を押す。
ホール 2	大きなコンサートホールにいるような響き	A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら E2 を押す。
ステージ	ステージにいるような響き	A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら F2 を押す。



⇒詳しくは 13 ページをご覧ください。

■ ピッチを合わせる

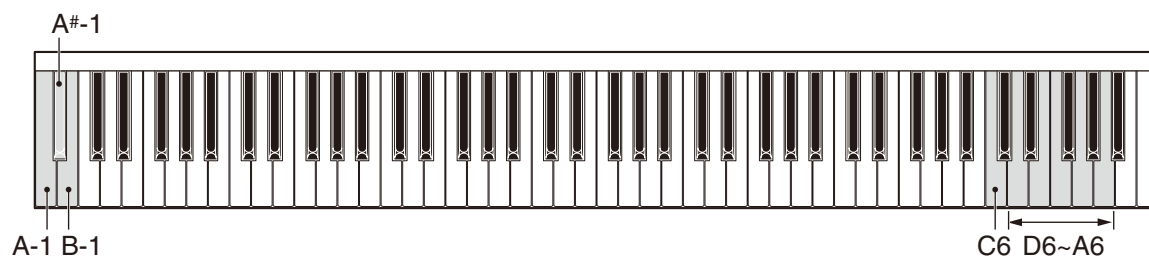
操作	設定方法
ピッチを上げる	A-1 と B-1 を押しながら、C3 から B3 までのいずれかの鍵盤を押す。
ピッチを下げる	A-1 と A#-1 を押しながら、C3 から B3 までのいずれかの鍵盤を押す。
工場出荷時のピッチに戻す	A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら、C3 から B3 までのいずれかの鍵盤を押す。



⇒詳しくは 13 ページをご覧ください。

■ DDE (ダイナミック・ダンパー・エフェクト) をかける

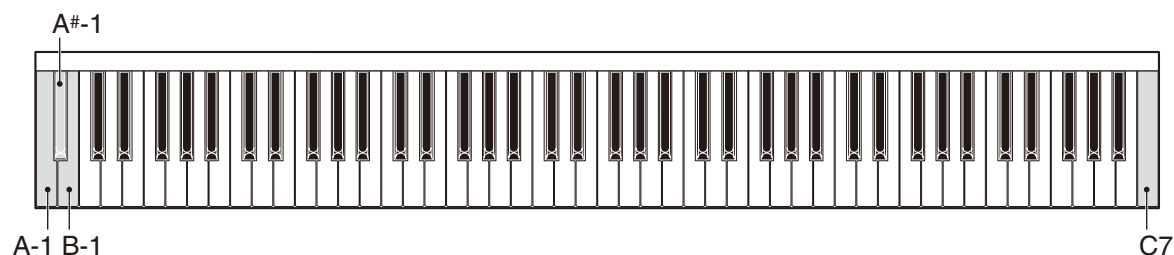
操作	設定方法
DDE をオフにする	A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら C6 を押す。
DDE をオンにする (5 段階可変)	A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら、D6、E6、F6、G6、A6 いずれかの鍵盤を押す。 (効果は A6 が最も深く、D6 が最も浅くなります。初期設定は E6 です。)



⇒詳しくは 14 ページをご覧ください。

■ すべての設定を工場出荷時の値に戻す（オールリセット）

A-1 と A#-1 と B-1 を押しながら C7（いちばん右の白鍵）を押す。



⇒詳しくは 14 ページをご覧ください。

■ 内蔵メモリーに録音した曲を再生する

再生をするには

再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押す。

再生を停止するには

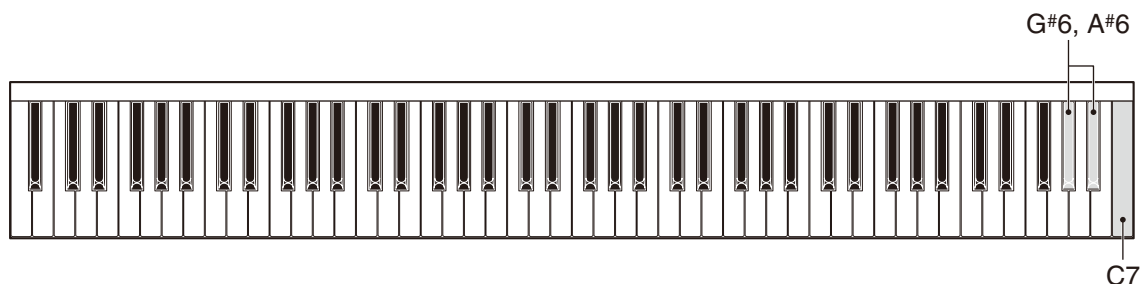
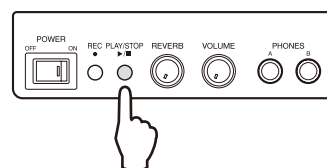
再生中に再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押す。

一時停止するには

再生中に C7 を押す。

早送りするには

再生中または一時停止中に、G#6 を押しながら A#6 を押す。



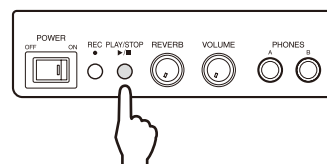
⇒詳しくは 16 ページをご覧ください。

■ USB メモリーの曲を再生する

<本機で最後に保存した曲を 1 曲のみ再生する場合>

USB メモリーを本機に接続した状態で再生ボタン（PLAY/STOP）を押す。

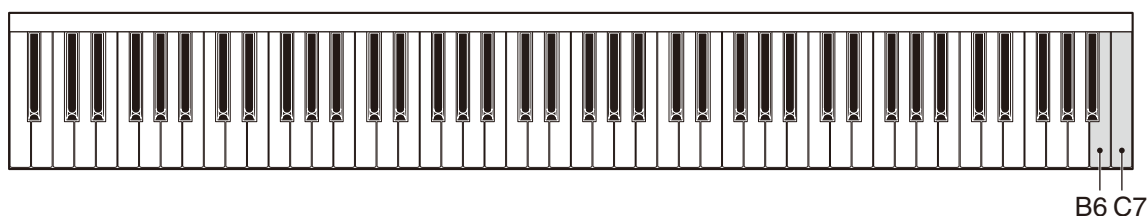
⇒詳しくは 19 ページをご覧ください。



<複数保存されている曲を再生する場合>

1 USB メモリーを本機に接続した状態で、B6 と C7（右端の白鍵 2 つ）を同時に押しながら電源を入れます。

2 電源を入れてから約 1 ～ 2 秒後に鍵盤を戻します。
自動的に USB メモリーに最初に保存した曲から再生が始まります。



複数曲の再生を終了するには

電源を入れなおす。

聴きたい曲を選ぶには（ダイレクト選曲）

A-1 を押しながら、C0 から C#4 間の選みたい曲番号に相当する鍵盤を押す。

曲間を移動するには

ひとつ前の曲を選ぶには F#6 を、ひとつ後の曲を選ぶには A#6 を押す。

早送りするには

再生中または一時停止中に、G#6 を押しながら A#6 を押す。

一時停止するには

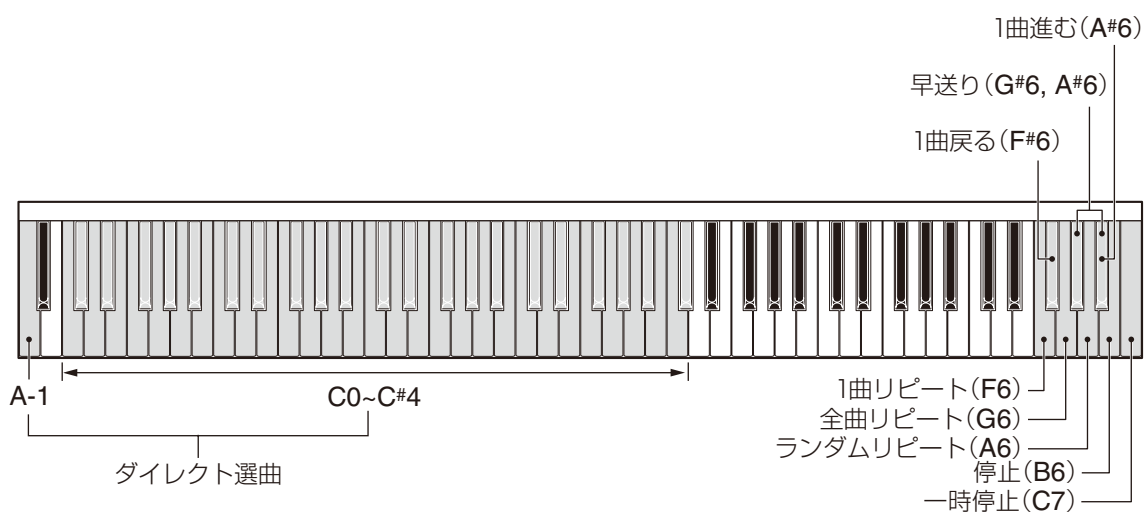
再生中に C7 を押します。また、再開するときも C7 を押す。

停止するには

再生中に B6 または再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押す。再開するときには再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押す。

リピート（繰り返し）モードを設定するには

1 曲リピートするには F6 を、全曲リピートするには G6 を、ランダム（任意の曲順で）リピートするには A6 を押す。



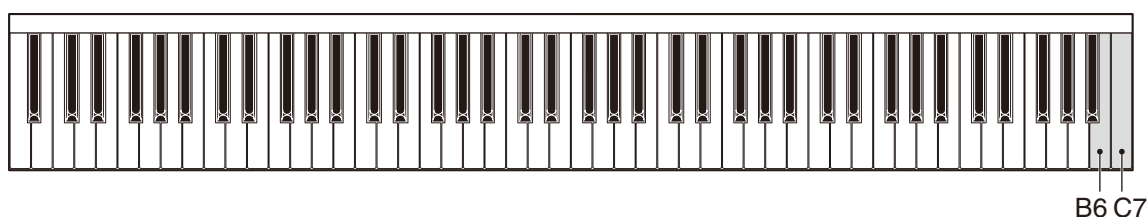
⇒詳しくは 19、20 ページをご覧ください。

■ 試聴曲を再生する（試聴モード）

1 B6 と C7（右端の白鍵 2 つ）を同時に押しながら電源を入れます。

2 電源を入れてから約 1 ～ 2 秒後に鍵盤を戻します。

自動的に第 1 曲目から再生が始まります。



試聴モードを終了するには

電源を入れなおす。

聴きたい曲を選ぶには（ダイレクト選曲）

A-1 を押しながら、C0 から C#4 間の選みたい曲番号に相当する鍵盤を押す。

曲間を移動するには

1 つ前の曲を選ぶには F#6 を、1 つ後の曲を選ぶには A#6 を押す。

早送りするには

再生中または一時停止中に、G#6 を押しながら A#6 を押す。

一時停止するには

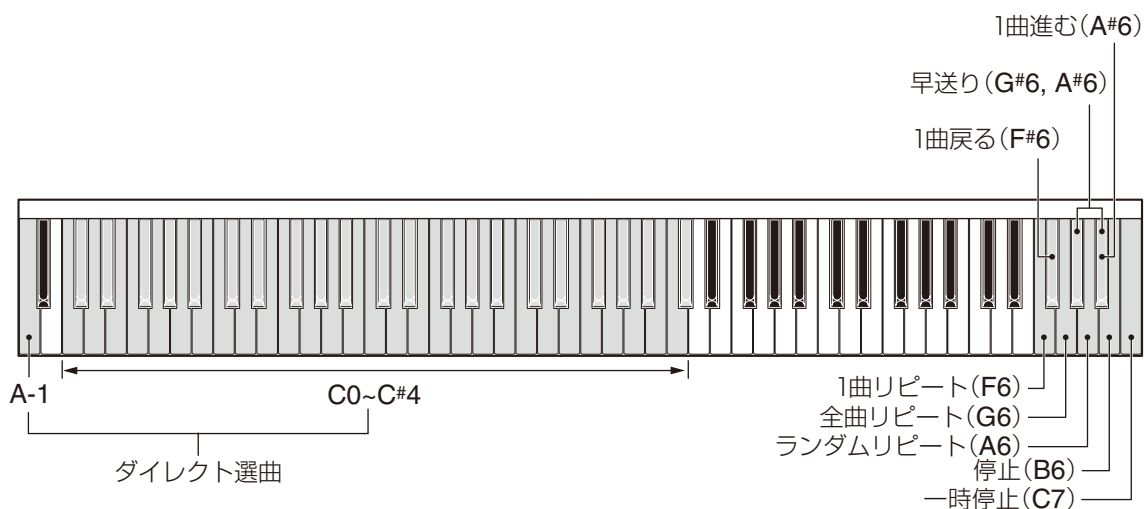
再生中に C7 を押す。また、再開するときも C7 を押す。

停止するには

再生中に B6 または再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押す。再開するときには再生／停止ボタン（PLAY/STOP）を押す。

リピート（繰り返し）モードを設定するには

1 曲をリピートするには F6 を、全曲をリピートするには G6 を、ランダム（任意の曲順で）リピートするには A6 を押す。



⇒詳しくは 20、21、27 ページをご覧ください。

MIDI インプリメンテーションチャート

Date : 2006.07.10
Version : 1.00

ファンクション		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源オン時 設定可能	1 ×	1+2 ×	
モード	電源オン時 メッセージ 代用	3 × *****	3 × ×	
ノート ナンバー	音域	21-108 *****	21-108 21-108	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○9nH, v=1-127 ○8nH, v=40H	○v=1-127 ○	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチベンド		×	×	
コントロール チェンジ	0, 32	○	○	バンクセレクト
	1	×	○	モジュレーション
	7	×	○	ボリューム
	10	×	○	パンポット
	11	×	○	エクスプレッション
	64	○	○	ダンパーペダル
	67	○	○	ソフトペダル
	66	○	○	ソステヌートペダル
	91	○	○	エフェクト デプス
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ *****	○	
エクスクルーシブ		×	×	
コモン	ソング・ポジション	×	×	
	ソング・セレクト	×	×	
	チューン	×	×	
リアル タイム	クロック コマンド	×	×	
その他	オール・サウンド・オフ	○	○(120,126,127)	
	リセット・オール・コントロール	×	○(121)	
	ローカルオン/オフ	×	○(122)	
	オール・ノート・オフ	×	○(123-125)	
	アクティブ・センス	○	○	
	リセット	×	×	
備考				

モード1: オムニオン、ポリ モード2: オムニオン、モノ
モード3: オムニオフ、ポリ モード4: オムニオフ、モノ

○: あり
×: なし

保証とサービスについて

本機の保証期間は、保証書に記入されたお買い上げの日付から1ヵ年です（現金、ローン、月賦などによる区別はございません）。また保証は、日本国内にてのみ有効といたします。

保証書

保証書をお受け取りのときは、お客様のご住所、お名前、お買い上げの年月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効となりますので、くれぐれもご注意ください。

保証書は大切に保管しましょう

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客様に、保証規定に則り、お買い上げの日から向こう1ヵ年の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくこととなります。いつでもご提示いただけますように、十分ご配慮のうえで保管してください。また、後々のサービスに際しての機種判別や、サービス依頼店の確認などにも役立ちます。保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。

保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡いただきますと、技術者が修理・調整いたします。この際、必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合には、サービス料金をいただく場合もあります。また、お買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいはヤマハにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。満1ヵ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料になりますが、引き続き責任をもってサービスさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっています。そのほかご不明な点などございましたら、下記のヤマハ修理ご相談センターまでお問い合わせください。

本機についてのお問い合わせは、最寄りのヤマハピアノ特約店／下記のヤマハへ

◇ピアノの機能や取り扱いについてのお問い合わせ

最寄りの特約楽器店、または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター ピアノご相談窓口

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-003-808

※一般電話、公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号へおかけください。
TEL 053-460-4835

営業時間 月～金 10:00～18:00／土 10:00～17:00（祝日およびセンター指定休日を除く）
<http://www.yamaha.co.jp/support/>

◇ピアノの修理についてのお問い合わせ

お買い上げ店、または下記ヤマハ修理ご相談センターへお問い合わせください。

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

※一般電話、公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号へおかけください。
TEL 053-460-4830

営業時間 月～金 9:00～18:00／土 9:00～17:00（祝日およびセンター指定休日を除く）

◇その他、本機全般についてのお問い合わせ

ヤマハ株式会社 国内営業本部 鍵盤企画部 ピアノ企画グループ

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
TEL 03-5488-5442

※名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。



ヤマハ株式会社

ピアノ事業部 営業部

〒436-0038 静岡県掛川市領家1480